



# [谷口吉郎・谷口吉生]展

金沢が育んだ二人の建築家



会期：  
2014年  
11月15日[土]—12月21日[日]  
会場：  
金沢市民芸術村

開館時間  
10:00—18:00[金・土のみ20:00まで/入館は30分前まで]  
料金  
一般 500円[400円]、65歳以上 400円、  
高校生以下 無料  
[]は20名以上の団体料金、  
身体障害者手帳等をご提示の方及び付添者1名まで無料

主催：谷口建築展実行委員会、金沢市  
協賛：鹿島建設、大成建設、大林組、清水建設、竹中工務店

展示設計：谷口建築設計研究所  
監修・デザイン：矢萩喜從郎  
企画アドバイザー：松隈洋  
企画構成・ディレクション：アグロープ

**[谷口吉郎・谷口吉生]展 — 金沢が育んだ二人の建築家**

長い歴史をもつ城下町・金沢は、江戸時代〔藩政期〕の武家屋敷や木造の町並みが今も当時の面影そのままに残されています。また、本展の会場となる紡績工場を再生させた金沢市民芸術村〔1996年〕をはじめ、明治時代以降のレンガ造りの建物など、多くの近代建築についても、大切にされて保存活用が図られてきました。さらに、金沢市においては、近年、新しく美術館や図書館などの公共建築が建設され、それらの斬新な現代性も多くの注目を集めています。

この展覧会では、そんな歴史と現代が交錯する金沢が生んだ二人の建築家、谷口吉郎〔1904-79年〕と谷口吉生〔1937年-〕の親子二代の仕事を通して、日本の近現代建築が切り拓いた独自の地平と世界へと通じる広がりをご紹介します。そして、この展覧会を通して、二人の建築美学を育んだ金沢の町がもつ歴史的な意味と潜在的な価値を共有し、先人たちが蓄積してきた建築文化への理解を深めたいと思います。

二人の建築作品には、共に、伝統に根ざしつつ、そこから優れた特質を抽出し、清新な空間を創造する、という一貫した姿勢が流れています。同時に、その生きた時代や求める建築像の違いから、作風には微妙な変化も見られます。谷口吉郎は、藤村記念堂〔1947年〕や東宮御所〔1960年〕、ホテルオークラ〔1962年〕に代表されるように、伝統的な木造の文化に根差した、清らかでありつつも、どこか華麗な抒情性を湛える静かな建築を目指しました。一方、谷口吉生は、土門拳記念館〔1983年〕や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館〔1991年〕、豊田市美術館〔1995年〕など、洗練された現代的な素材や構法を用いて、人々が歩むに従って次々に風景が展開していく、より環境との関係性を重視した透明感あふれる動的な建築を求めてきました。また、そのことによって世界へと通じる普遍的な建築美学を獲得し、アメリカのニューヨーク近代美術館〔2004年〕を実現させたのです。そして、これまでの集大成であり、新たな挑戦ともいえる、日本建築の原理を追求した鈴木大拙館〔2011年〕を完成させます。

この展覧会は、共に明晰な建築思想と凜とした精神性をもつ二人の建築家の仕事を、清らかな意匠から透明感のある環境造形へ、という視点でとらえ、長い思索を通して受け継がれ、深化されてきた建築思想の神髄に迫ります。そして、二人が切り拓いた豊かな建築の世界を通して、建築とは何を実現することなのか、その集積としてのより良い都市を築くためには何が大切なのか、金沢という町とのつながりを含め、広く建築文化と都市環境の意味について考えます。

**関連企画**

◎谷口建築展記念討論会

日時:11月15日〔土〕

13:30-15:30〔開場13:00〕

会場:金沢市民芸術村

パフォーマンススクエア

出演:谷口吉生他

参加費:入場無料

定員:300名、要事前申込〔多数の場合は抽選〕

申込方法:往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、人数〔2名まで〕及び返信用の住所・氏名をご記入の上、10月20日〔月〕〔当日必着〕までに谷口建築展実行委員会までお申込ください〔結果は10月末にお知らせします〕

\*詳細はホームページをご覧ください

◎展示解説

〔谷口吉生(建築家)、松隈 洋(建築史家・京都工芸繊維大学教授)が展示会場内にて解説します〕

11月16日〔日〕 谷口吉生

11月22日〔土〕 谷口吉生

11月29日〔土〕 松隈 洋

12月6日〔土〕 松隈 洋

12月13日〔土〕 松隈 洋

12月20日〔土〕 谷口吉生

各日共、11:00、14:00の2回〔各先着20名、解説30分〕本展入場者が対象

**お問い合わせ**

谷口建築展実行委員会事務局

〔金沢市企画調整課内〕

〒920-8577 石川県金沢市広坂1-1-1

tel.076-220-2031 fax.076-264-2535

URL:http://www.taniguchi-kanazawa.jp

**Contact**

Taniguchi Architectural Exhibition Executive Committee

1-1-1 Hirosaka, Kanazawa,

Ishikawa 920-8577

tel.076-220-2031 fax.076-264-2535

URL:http://www.taniguchi-kanazawa.jp

**谷口吉郎/Yoshiro Taniguchi**



〔藤村記念堂〕〔1947年〕  
〔©平山忠治〕



〔石川県美術館〔現・石川県立伝統産業工芸館〕〕  
〔1959年〕〔©平山忠治〕



〔ホテルオークラ メインロビー〕〔1962年〕  
〔撮影:川窪・小林研二写真事務所〕



〔東京国立博物館 東洋館〕〔1968年〕  
〔撮影:新建築社写真部〕

**谷口吉生/Yoshio Taniguchi**



〔土門拳記念館〕〔1983年〕  
〔撮影:彰国社写真部〕



〔東京都葛西臨海水族園〕〔1989年〕  
〔撮影:北嶋俊治〕



〔豊田市美術館〕〔1995年〕  
〔撮影:北嶋俊治〕



〔鈴木大拙館〕〔2011年〕  
〔撮影:北嶋俊治〕



会場:  
金沢市民芸術村  
〒920-0046  
石川県金沢市  
大和町1-1〕  
tel.076-265-8300

The Exhibition  
Gallery  
Kanazawa  
Citizen's  
Art Center  
〔1-1 Daiwa-machi,  
Kanazawa,  
Ishikawa  
920-0046〕  
tel.076-265-8300

**アクセス:**

- 金沢駅・片町交差点から  
徒歩15分、タクシー5分
- バスをご利用の場合  
武蔵ヶ辻バス停発 香林坊経由  
北鉄バス〔西金沢4丁目〕行き  
大豆田バス停下車
- お車をご利用の場合  
北陸自動車道〔金沢西1.C〕から  
片町方面に約10分〔無料駐車場有〕

**Access information:**

- 〔Taxi/Walk〕  
5 minutes taxi ride from Kanazawa  
Station/Katamachi intersection.  
15 minutes walk from Kanazawa  
Station/Katamachi intersection.
- 〔Bus〕  
Take a route bus [Hokutetsu bus] from  
Musashigatsuji [via Korinbo] bound for  
Nishi-Kanazawa 4 cho-me,  
and get off at Mameda.
- 〔Car〕  
Take the Hokuriku expressway,  
get off at Kanazawa-nishi interchange,  
and drive about 10 minutes to the  
Katamachi area. [Free parking lots available]